

田村市石森地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 収量・品質の高位平準化に向けた対策を提案（たい肥の施用、ドローンによる病害虫防除等）
- 機械等の導入計画を適宜、見直した上で必要な機械等を導入

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】
（R3）水稲:7.5 ha、大豆:5.0ha⇒（R5）水稲:7.4ha,大豆:8.6ha
- 石森地区の中心的な担い手として、農地を借り受け、水稲・大豆の生産、作業受託を行っている。R4産より田村市外でも大豆栽培を開始した。
- 市内の大豆の刈取作業～乾燥調製受託も行っている。（R3:3.7ha⇒R5:4.7ha）



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産を徹底>

- JAと複数年契約を締結した。

<ドローンによる防除の実施>

- 作業の効率化を図るため、新規にドローンによる害虫防除が70aで実施された。

<適期作業、省力化技術の実施>

- 中耕培土と追肥を令和5年度から実施した。
- 7月播種のほ場のうち20aのほ場にて狭畦播種を実施。



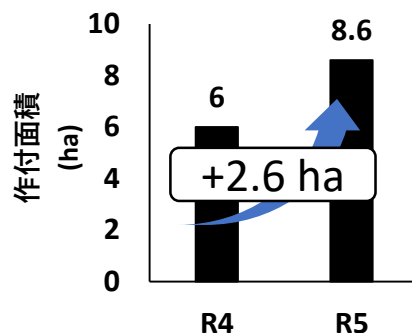
4 取組成果

<大豆作付面積の拡大>

- 作業効率の向上により作付面積が増加した
R4: 6.0 ha
（水田3.0 ha, 畑作3.0 ha,水田のうち 1.0 haは他グループで市外での作付け）
R5: 8.6 ha
（水田5.4 ha, 畑作3.2 ha,水田のうち 3.2 haは他グループで市外での作付け）

<中耕培土による雑草の減少>

- 中耕培土を実施したほ場では雑草の発生が抑えられていた



5 課題（6年度のポイント）

- R5産は高温・干ばつにより、収量がR4比で66%に低下したことから、緑肥やたい肥等による土づくり、明渠やレーザーレベラーによる整地等の排水対策の試験導入を検討する。
- 害虫被害は、カメムシ類が中心であったことから、より効果の高い薬剤への変更と防除適期を助言し、品質向上を目指す。